



協力して装置を制作する生徒たち



講師から説明を受ける生徒たち

4月20日
エッグドロップコンテスト
BAL Studio 1で、タイの生徒が高2生徒の前で自己紹介し、18班に分散。司会の本校生徒から「エッグドロップコンテスト」についての説明を聞き、英語で説明しました。

一定の位置から装置を作り上げた後、各班の代表が「なぜその形にしたのか」を英語で説明しました。

4月22日
サイエンスフェア
BAL Studio 1で、「サイエンスフェア」を開催式後、生徒たちは実験室、教室など6班に分かれ、まずは外部講師による次の講義を受けました。

双方の生徒から「興味深い講義を受けることができ楽しかった!」という感想が聞かれました。

続いて、BAL Studio 1において、各自の研究テーマに添ったポスター発表を行いました。本校生徒も英語での発表にチャレンジし、相互の研究について理解を深めました。

タイの生徒たちは26日まで滞在し、本校生徒と一緒に本校やタイ教員の特別授業、さらに、連携大学の工学院大学、芝浦工業大学を訪問しての実験講義も受けました。

文部科学省から都内女子校で唯一、SSHの指定を受ける本校では、海外の理数教育に長けた高校との交流が盛んです。

4月には、教育提携を結ぶタイの王立校であるプリンセス・チュラボーン、サイエンスハイスクール・ペッチャブリ、KVIS(ケイヴィス)から18名の生徒が関係者と共に来校。本校高2生徒とのグループ活動によるプログラムに参加し、相互交流を図りました。

高校 タイの高校生と共に学ぶ

加知千裕先生（東邦大学理学部化学科）★「動物多能性幹細胞の食料生産への応用」鏡味裕先生（信州大学農学部）★「視えない宇宙を見る」小麥眞也先生（工学院大学先進工学部応用物理工学）花房昭彦先生（芝浦工業大学システム理工学部生命科学科）★「すばらしき南極 堀内順治先生（東京芸術大学附属国際中等教育学校）★「銀ナノ粒子マジックペイント」などを実験回路について学ぼう」土井寛之先生（株式会社バネス）★「コンピュータは不思議なurasu」幅田陽一先生、講師から説明を受ける生徒たち

内容は「環境」をテーマとしたA4版のポスター制作。「問題提起」「解決の提案」をキーポイントに、トレーシー教授は例え、が、本学との新規プログラム実施のために来日。4月24日には、駒込キャンパスで、英語コースの高3校

Can]の[Can]の[a]を

内容は「環境破壊によりオゾン層に穴が開き、地球温暖化が進んでいる」など、メット・セージを込めました。完成したポスターは、教室のロッカーに貼られ、制作した

生徒が作品について解説。や壁に貼られ、制作した

たちが短時間で感性ある作

品を仕上げたことに驚き、

称賛の言葉を送りました。

今年も世界最大級のアニメイベント「AnimeJapan 2017」(主催:一般社団法人アニメーション・ジャパン)が、3月23日～26日に東京ビックサイトで開催されました。本学は25日、メインエリアにブースを構え、18名の学生実行委員たちがプレゼンや来場者対応などに大活躍しました。

26日、メインエリアに「アニメ」、「ブレーメンズ」の班「伊豆大島班」、「伝統工芸班」、「ブレーメンズ」が成果を発表しました。

「伊豆大島班」、「伝統工芸班」、「ブレーメンズ」は、デザインや映像制作、マーケティングを学ぶ学生たちが、商品企画から制作・販売までのプロジェクトについても

発表しました。

CIP部ご紹介

中高

今月号は、「うん、あるある!」と共感できる「神恋さん」(中3)のデビュー作品です。顧問の先生からは次のコメントが届きました。「高3の4人が引退し、中3が二人で部を守ることになりましたが、この春待望の新入部員を迎え、活気づくCIP(コミック・イラスト・ピクチャーブック)部です。若きクリエイターたちにどうぞご期待ください!」



MD班の堂々たる発表

伊豆大島班
が宮下委員長
が宮下委員長
が宮下委員長

MD班の堂々たる発表
伊豆大島班
が宮下委員長
が宮下委員長
が宮下委員長

伊豆大島の椿花ガーデンで
「椿ランタンライトアップ
プロジェクト」を実施。学

生実行委員長を務めた経営学部2年(当時)の宮下日菜子さんは次のように話し、1年間の活動を締めくくりました。「運営班に所属しながら、MD班、デザイン班が『AJ』ショウを保つて一つに

2013年に発生した台風による土砂災害により、伊豆大島の観光客が激減した現状を知った学生たちが「島の魅力を外部に発信するためのサポート」を考えて現地に赴き、地元の方々と意見交換。株式会社シマーズ、東海汽船株式会社の協賛を得て2月22日、伊豆大島の椿花ガーデンで「椿ランタンライトアッププロジェクト」を実施。学

校の発表

を理解していただく苦労な

い、それをポスターを作成。それを提出しました。完成したポスターは、教室のロッカーに貼られ、制作した

生徒が作品について解説。や壁に貼られ、制作した

たちが短時間で感性ある作

品を仕上げたことに驚き、

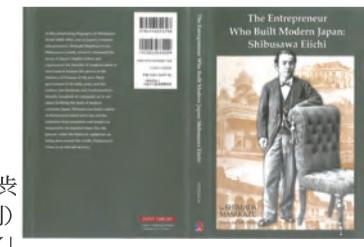
称賛の言葉を送りました。

新書コーナー

島田昌和理事長・経営学部教授の著書『渋沢栄一 社会企業家の先駆者』(岩波書店刊)が、政府が推進する「JAPAN LIBRARY」に選出され、この度「The Entrepreneur Who Built Modern Japan: Shibusawa Eiichi」として発刊されました。

内閣府では平成26年度より政府広報予算において、海外の有識者、メディア関係者をはじめ、様々な層に対して日本の魅力を積極的に発信すべく、日本の多様な書籍を英語に翻訳して出版する事業を行っています。

発行書籍のシリーズは「JAPAN LIBRARY」として、海外の大学図書館、研究室、公共図書館などに寄贈されます。



4月20日
エッグドロップコンテスト
BAL Studio 1で、タイの生徒が高2生徒の前で自己紹介し、18班に分散。司会の本校生徒から「エッグドロップコンテスト」についての説明を聞き、英語で説明しました。

タイの生徒が高2生徒の前で自己紹介し、18班に分散。司会の本校生徒から「エッグドロップコンテスト」についての説明を聞き、英語で説明しました。

4月22日
サイエンスフェア
BAL Studio 1で、「サイエンスフェア」を開催式後、生徒たちは実験室、教室など6班に分かれ、まずは外部講師による次の講義を受けました。

双方の生徒から「興味深い講義を受けることができた!」という感想が聞かれました。

続いて、BAL Studio 1において、各自の研究テーマに添ったポスター発表を行いました。本校生徒も英語での発表にチャレンジし、相互の研究について理解を深めました。

タイの生徒たちは26日まで滞在し、本校生徒と一緒に本校やタイ教員の特別授業、さらに、連携大学の工学院大学、芝浦工業大学を訪問しての実験講義も受けました。

4月には、教育提携を結ぶタイの王立校であるプリンセス・チュラボーン、サイエンスハイスクール・ペッチャブリ、KVIS(ケイヴィス)から18名の生徒が関係者と共に来校。本校高2生徒とのグループ活動によるプログラムに参加し、相互交流を図りました。

文部科学省から都内女子校で唯一、SSHの指定を受ける本校では、海外の理数教育に長けた高校との交流が盛んです。

4月には、教育提携を結ぶタイの王立校であるプリンセス・チュラボーン、サイエンスハイスクール・ペッチャブリ、KVIS(ケイヴィス)から18名の生徒が関係者と共に来校。本校高2生徒とのグループ活動によるプログラムに参加し、相互交流を図りました。

内容は「環境」をテーマとしたA4版のポスター制作。「問題提起」「解決の提案」をキーポイントに、トレーシー教授は例えば、が、本学との新規プログラム実施のために来日。4月24日には、駒込キャンパスで、英語コースの高3校

Can]の[Can]の[a]を

内容は「環境破壊によりオゾン層に穴が開き、地球温暖化が進んでいる」など、メット・セージを込めました。完成したポスターは、教室のロッカーに貼られ、制作した

生徒が作品について解説。や壁に貼られ、制作した

たちが短時間で感性ある作

品を仕上げたことに驚き、

称賛の言葉を送りました。